



溫故目錄

三

子

2200
2



門へ 15
9.200
二



温故日録卷第四

卯月

更衣

朔日 衣ハ衣かハなまは宮中所ハ此清衣ヲ
掃部寮アツク御殿代清帳代ツクおとす

胡粉ツク繪ツク壁代ツク清ツクミナトツク

公事根源 下略禁秘抄ニ云ル帳

惟夏生衣以胡粉畫葦雀冬朽木形云

白襲

更衣代時の衣也表裏ちろききぬの重也桃花云
白襲といふ綾ハ平絹と表裏白瑩云

著寸或ハ表裏只張四月十月更衣の外ハ暑月著之

青簾

青紫れすれも翡翠乃すれとて四月
一日新き清簾以清殿より取云



女をよめたりてはく 河多系と云れハ溢カ
穴よりとほつてく節 渡山吉野山とてく三室山
とてよりをりひ時をうりて大物主神と云れなり
これ系くらりけりらまきくこりけりけりハ三輪とて
Pをる舊事本記よん及作りやうよおなり作り
け祭ハ貞観乃時よりけりまりをうりや 公事根源
年中行事 哥合よ

りてをれとやうてんのかおはれ神のまうりなり
ハ三輪の明神ハ社もなうて祭れ日ハ茅輪と三輪
Pとて岩の上よとてとてまはまらる社乃おりおわ
やとて里れをれもあはよりてけりてりをれ
鳥百千にてありてけりやうりてをれ本も
とけ各くくくゆれさるふをり其後神れちりて
Pとてけりてや 奥儀抄 け岩ハ二代鳥井の内よ

ちりての秋りり其所よあり堀河次郎百首よ兼昌

哥云

束けりてなうてく草やさハ三輪社乃ちりて
但神代卷上四十一枚云吾ハ日本国三諸山よ住
思ぬ故に即宮と彼處よ宮就居る此大三輪
神也云云略記之この説の如きを三輪社ありと
んも 詞林採葉抄ニ云ハ太神宮、祢宜部廣
成撰く古語拾遺日ハ大己貴神大和国城
上郡大三輪神是也云云
新撰撰集 後成哥云

稻荷祭

同日ハ神社建立れ縁起又まうり此盤觴
和銅年中ようりて伊奈利山よあつたれ

きりとうや或ハ弘法大師の東寺此門前ト稲
あひくる老翁よあひのいさくと東寺此鎮守
勸請ヤされと語り説もゆくとていなりと
稲と荷とあきりともや 公事根源 延喜式神
名帳ニ云フ稲荷ノ神社三座下社大山祇中社倉
稲麩上社土祖神この神ハ百穀と播一
みよれよ稲荷とより由ト部乃記よりなり

山科祭

上巳日 びる一ツハ宮道氏此祖神也寛
平十年より祭ハくまら 公事根源 當日
使立 拾芥抄 十一月と度度あり

平野祭

上申日 延暦よび神社とハ造立ありて
貞観よりの祭礼とハ始行せしむとて弁内
侍ひふ近衛のまじひひく見参と取て内よみ
つて奏寸臨時乃祭あり五位此殿上人使と此と

ひと湯此舞人きとふ使あり湯幣なく賀茂の臨
時の祭のこゝ此臨時乃祭ハ寛和元年四月十日より
はりりる其時代使ハ左湯門權佐藤原惟成なり
さく免くく一才乃御殿ハ源氏才二ハ平氏才三ハ高
階氏才四ハ大江氏才五ハ姓乃祖神とてまじり
なす一 公事根源 十一月と度度あり年中行
事哥合小
林と印月とわんふ人のひ此のよりよゆとせり

松尾祭

同日今ハ酉日 此祭も貞観年中よりま
る大寶元年よ泰の都理とていなりりる
神殿と建立一きとともや大山咋神乃湯事也
比叡山此神と同躰とてまじり
十一月と二度あり年中行事哥合よ
二葉さんまのあふあひあつよかりてきまわらん

梅宮祭

上酉日 養和此始あり祭ハはりまる 永延以
後毎年ノ事ハ成りりそれよりあり

時もまた又ごりり年もゆりき此社ハ仁明天皇
此御母橋太后の祖神也 養和年中ハ初
御門より祭せしむる橋氏乃祖神なり是
定といひく梅家の人此後承継する社トてゆりや
公事根源 下略十一月二度あり年中行事并合
社まるお月これ株ありそく梅はなやゆふとる清幣

廣瀬祭

龍田祭

四日 是兩社ハ大和國より祭
の月ハ廢務也年ハ二度あり

使ハ前の日より大忌風神乃祭といハ是也風水
難とのそきて年穀の豊なる事と祈り
りや天武天皇四年四月ハ風神とるり立野
まり大忌神を廣瀬河曲にまりると日本紀小

るり神代此卷ハ伊弉諾伊弉册尊此朝霧

と吹りひりり意氣此化して神となり
哉風神より由りり大塊の噫氣哉
風とりんかかなひゆるりや 公事根源 七月二度

年中行事并合ハ秋の祭哉
そりんき此を此神はまきりり月の神なり

灌佛

八日 佛生湯 神事ハあるる日ハの
是時ハ九日より清浄事とるり御殿乃

母屋此清浄とるりハの清浄を撒いてその
跡より清浄とるりハのひまれあふ氣一
はく系して清と落しきく此清浄あり北乃
きた机を立ち御五ハ入る此を入る公ハ参河
はかりて殿上より女房乃布施とるり
ひくる花より風流たくる清衣箱のりり入て

臺盤所よりつとさるれと蓋人よりて殿上の臺盤
 所のくまをくと達部つとゆ勢れられづくを持
 て御殿のかけのともる自木の机はあましく次
 第小座はけく浄土の浄せりて成をくる不参れ
 人のあせハ蓋人をく浄導師の僧まりのりりて
 佛前れ作法をりり鉢の水をさくもあせり
 先沙導師くると仏す公卿次第はすくもて笏成
 膝行していさ成りりて水を汲て灌佛して
 後礼佛寸導師あせりりてちりり此佛生會は
 推古天皇よりりり浄土釈迦如來れ俱毘藍城して
 されりりりり天竺下りて水とるき尺るあふ
 せりり事とり也 公事根源 国史仁明 兼和七年
 四月八日請律師傳燈大法師位静安於清凉

恩始行灌佛して諸寺よとこなる佛生會
 ハ推古天皇よりりりり灌佛して内裏并りり
 親王大臣家までをりりりハ兼和七年より始也
 灌佛乃布施ハ昔ハ錢を用ゆる成中比り氏
 になされりりりり 花名傳情 布施の儀
 の貞敷河海よ委新續古今前大僧正慈鎮哥
 百敷れりりりりり 拾玉集才四 此をに仏せられたい

雁鳥入鳥屋 同 雁鳥屋籠 鳥屋雁鳥 も夏也鶯
のなは雜

也句祈よ 替毛鷹 或ハ五 月

日吉祭 中申日此社ハ松尾乃社に同祈也とよるり
 長久四年六月八日よりりりり二社の内

よくく延久四年四月廿三日は祭
をけりしる 公事根源 十一月と二夜を

賀茂祭

中、酉日 御形 葵桂 諸警

未の目先上陣に著て六府とめて警
固れしを仰寸當日使ハ近衛の中少將は
昔夢此はをゆりしる人あひ桂此蕩を
し賀茂松尾の社司は此日よりあき
ふてまうる 欽明天皇の御宇よりは祭ハ
下鴨御祖上賀茂別雷二の神祭也此
の神と玉依姫と寸賀茂建角身命は
とめ也あつて此小川のやうにあひ
とら丹隆矢一とらをれしる玉依姫は
して我家は子よきとてしるて程あ
らうて男子とてしるて父とてしる

きあつてしる酒とてしるていし
ていしちち父よきとてしるていし
ささハ虚空よわけて家ハを學ぶ
神の御子とて天上とてしるて則別雷
此命是也いし丹隆矢ハ松尾此大明神と後
いしれぬふやおほし神事ハ大祀中祀小祀
ハ事あり一月の神事ハ大祀といハ大嘗會
三日のとも中祀とい今此賀茂祭なり也一月の神
事ハ小祀とい寸松尾平野以下諸社乃祭
ハ公事根源 只祭といし祭の事也藻塩草
よとらうるとは葵と桂と葵と桂と
云

あつてはあつては神の御子とてしるていし桂かきしる
新撰六帖に信實朝臣哥也

五文

葵 一向よみわれ此

二葉草

葵と二葉草 諸葉草

の物也 八雲 賀茂乃神山を
とふせく 浅原の目此神 賀茂乃神山を
たふせく 浅原の目此神 賀茂乃神山を
雑上賀茂經久哥

諸葉草

引哥

吉田祭

中子日

此社ハ中納言山蔭卿貞觀の比

一官幣をもてまつる也 祭春日の社ニ同躰あり
奈良の京代時ハ春日社長岡京の時ハ大原野
今平安城代時ハ吉田社なり 帝都ちり此所成志
うく御門とすのりちりせたまふやされハ浅堂代用白

の法成寺ニ吉田社と成あり 事ハ貞福寺と

十日社とたりしとせしれり 公事
子二下子 拾芥 十一月ニ二度あり 年中仍事哥合兼瀬

筑摩祭

初午日

伊勢物語

愚見抄 後成恩寺云拾遺第十九上句いつか
はくまれまはりてせぬんこり江別筑摩大明神の

まらりハ逢ふる男此教ハ増をてて女のも
於也今業云近江國湖の東此濱邊は且書云
名所乃南十餘町 遠て筑摩此病ありけ村の明
神此まらりハ四月廿此日也 此村の女も我ガ男志
くる教やど土堀を地りて板をこりめてててて
まらりの場とててて男志くる教をわくを耐したらまら

神罰カガツをかゝつとも是すまら罪障ツミカサさんげり
 めたすつひ神カミれが便ツギしちるをむし婦メノ婦メノはら
 しあまは男オトコをせり事コトをくらげ、大方オホカタの堀ホリひらけ
 つてさつ男オトコれ敷シキやど小堀コホリとけくらて大堀オホホリよ入イまふ
 へてくややせりば神カミ慮リョよりじきてこらびり
 ありれ小堀コホリのくづきいでハ証シをくらきるとかん中ナカ比ヒ
 よハ常ツツれ鍋ナベとつてさそくそりぐを代カみ比ヒハもま
 も終ハてそく神カミ祭マツルもやぶらごとくこらかり所トコロのへを
 ちくまそくよし哥カよハはけまといつり筑ツクれ字ジ筑ツク此コノ紫ムラサキ統トウ前マエ
 こ云クぐいぐちとけと五音ゴオン相通ツツ也ナリハ雲クモ御抄ミヤウチよく
 此コノ神カミにあり清輔シヨウボ集ツミよ寄ヨシ社ヤシ戀コイ
六帖六長ナガそり小堀コホリとのそでまうすかほれまよつてぬおゆ
 又源氏玉タマろくれ卷マキの引ヒキ弁ヒよ
六帖けまはまも莎草セソウれらもまもまも神カミよぬよの香カ

後拾遺

おひつれけまれ神カミのそあなりいつてまはれたいづる
 あふ事コトハはけよの神カミよのりまそをなす此コノ敷シキよまきりまき
 千五百番チヒトイハヒ哥カ合カヒ内大臣ウチナカミ哥カ枕マク後ノチ於オ
 いふぞんけれ神カミもらつてまきとらまきんがれ敷シキまらぬか
 撰セン吉キチ目メ け三枝サイジ祭マツルハ率ヒツ川カハ祭マツルを不由ユズル神カミ祇キ
 令トウよのせり三枝サイジの花ハナをかりて酒サケ樽ツクリとさる
 う故コトよ三枝サイジれ祭マツルとはり也ナリ此コノ祭マツルり二月ニケツの率ヒツ川カハの
 祭マツルとおゆりつてまきとらまきんがれ敷シキまらぬか
 くひよのせりれ先マキ其コノとく四月シケツの雨アメよりつるなを
 率ヒツ川カハ祭マツルハ左大臣サナカミ是コノ公キミ此コノ建タテ立タテ立タテとり口クチ傳ツタへ事コトこた
 けつるなれ事コト也ナリ此コノ故コトハ令トウこり書シキ淡海タンカイ公キミれえらハ
 まきとらまきんがれ敷シキまらぬか
 淡海タンカイ公キミれ曾ソウ孫ソノこすてよ令トウよ率ヒツ川カハ社ヤシに竹タケをたむ
 是コノ公キミれらりめて建タテ立タテよハまこつるまきとらまきんがれ敷シキまらぬか
 養老ヨウロウ以前イマヘ

温文集

よもたててをきる神社也是公此再真一をきると建立
とり哉くんいとわづらふ三枝と申てこよひ三
これ宗とよむ一公事根源 年中行事 哥合よ
きつれぬ三枝の花をたひけてや神におまへは酒をある
神祭 祭大と神事ハ四月よ多きれをかく
りて一各をさともまつりハ可随其季

齋刺

金葉 かつるまや存此ふきあて志りあれぬもえ
神祇也神まつりなをこはふまつりゆらんとして松竹柳
なを成さす事也 流布 夏あま一 師説

榊取

榊後拾遺 榊後拾遺の卯月よなれハ神止れなれハ一をまつり
賢木取ハハ此も此祭ハ一もはけるこ
也只榊ハ非夏榊ハ一もはけるこ

和清

白氏文集十九 樂天句 四月 彫天氣 和且清 緑槐
陰合 沙堤平 源氏胡蝶 けて又さうこは是

卯花

抄物ハ五月雨此異名也卯花をみ得あり
八雲 新式

八雲 説ハ一向ハ四月ハ物也云云 但堀河百首ハ
基後 哥小

又月清集二 後京極殿 哥小
山里ハ卯の花をみ得あり小垣とこゆる山川ハ

集第十ハ春よもよめる哥あり
春さハ卯の花をみ得あり 吾越一妹ハ垣まハあまよめるも

哥ハハかやよもよめる只連哥ハハ四月ハ用の

短夜 明易夜 明安月

五月待 五月まらハ卯月 宗祇注

麥アキ秋アキ 四月の名也百穀アキこなる生する時成春より其
月と秋とすくは存合はるるなり支本第八
をるは初し急ゆるも今もと麦秋とる

麦秋風 後頼家集

支本前大納言隆房卿哥
た秋の風 本下麦秋風とて凡は秋なるふもさる

麥アキ 一笛 支本才世五二西行哥云

も夏へ 一笛 支本才世五二西行哥云

牡丹 或ハ廿日草とも和訓 廿日と云はるるは
と八雲抄抄あるふもさるる仍号廿日草也

詞花集は牡丹とよめる哥は廿日と云はるるは
牡丹句廿日あまのさや秋名とすも草又芍薬成
詩經乃点はるる云云新式抄物ハ廿日草云
ハ芍薬此事也牡丹とも云一草二名又二草一名歟
云々其外異名も名取草千代見草ありする事
近代用捨寸 毎言抄 但可依作者 宗養句
おひさ紀や多紫は白ふらよと草

杜若 杜若牡丹哥題 雖兩説 依景物少 夏入之 新式

葵 細流云葵ハ必日よ向ぬ物也衛足にて身とたたりた
物也河海抄云葵ハ日よいづく紫をかきあけて

紅葉

夏葉と出りてあはれ成るを
つり萬葉は病葉ともす

草木もよまきるといふ夏也三月よりくるまひらけ
うなしくなるといふ成る野心なきとも夏しく扱ふ打越

茂合林下葉 も夏也 流布 木下閣 非夜

青木立 每言抄嫌詞よ出せり六百番哥合ニ季経
抄原すは夏代書本立をうりてもねしうりて

常盤木落葉

郭公 鶯花藤霞あはれむとひくも夏也杜鵑ハ弥生
未つるよりりて五月までともまらざる

四季田長時鳥 多し公事連哥よさうりて 流布
千五百番哥合ニ家長哥云

夫木第八前大納言忠良
ふ月ぬのさうりて月のあはれもあはれあはれし時のあはれ

明題 あはれもあはれし時のあはれと知りてあはれもあはれと
なすよめと不好事也但作者よさうりて

蝙蝠 夜分也又源氏紅葉賀よらりて云
是ハ扇の事也又清

魚乃さしめ扇也共よ夏也新撰六帖衣笠内大
臣哥云

日さればわはれふくはれあはれの風もすしり
和泉式部家集よ

人とかく名もあつてん。ついでにいふやうに君もさうめん
ついでにいふやうに君もさうめん。伏羽異そらけりらる
右三首ハ只蝙蝠乃哥也拾玉集第三三がうりとも

ひかり
ひかりはうりともさうめん。想古ちふらうともさうめん。花まふこ

外花衣

表白
裏青

蟬羽衣

裏乃かたす。此惣名之桃花葉葉小あり
或ハ表檜皮色として裏ハ青き由と異説あり

まろせと首夏乃哥
かへんあまうらり

温故日録卷第五

五月

献葛蒲

三日 昔月葛蒲ハ四日也 昔月蓬 同
左右乃近衛兵衛衛門ハ六府あやめ此輿

南殿此階乃東西よりうらまへ。此乃花紙抄よりうらまへ
くさく四日ハあさうらまへ。此庭は是を列主殿

寮所ハ小きいぬ少く天平十九年五月より詔ありて
百官諸人悉く葛蒲此藻をりて。弘仁式も葛蒲より

宮中ハ入るうらまへ。弘仁式も葛蒲より
さ花かりて三日ハ早且ハ南殿此前よりうらまへ
幸根源 雲圖抄ハ圖あり拾遺愚負外上

まふといふを艾れまふ。まふといふをまふ。まふといふをまふ。

顯昭云陸奥の菖蒲なり五月五日のうらみと少紀
こころをたんとくといひきく之を扱えらるるといふは
こころをたんとくといふは名もたんとくといひくうらみと
伊勢のうらみをいはるおとこといふは陸奥よこ
を扱かつといふはたまりあひあひも人の家にあま
とあつてうらみと扱こころをたんとくといふは彼国よりハ
ひり菖蒲のあひあひをたんとくといふはあまより一猶袖
中抄よ委拾玉集才ニ慈鎮の哥よ
東海や世はのうらみとあつてあまのたんとくをたんとく
なり

菖蒲 八日 月 五日
よかきく
枕 夜分
なり

薬玉 五日 五月 玉 群臣小薬玉扱たふみふは
系とりてひらあつてまの悪鬼をたんとく扱こり本
文ゆふや 公事 内侍薬玉扱太子以下は

つとくを右に殿よおひけく左に服つとくを二の次
とつてく腰よひひく各拜節 すう也 云云 花鳥至
徳記云内裏よハ絲取より薬玉を獻ず去年
九月九日よ御帳乃左右よ茶更に薬玉をけけ
小菊瓶を置一を撤去して薬玉よ取く九月ま
てこき置也夜御殿乃御帳の東北柱に付之
云云系羽ハ宋女町北よはり今世母ハ皇子以下
小児乃付むり袖よ繫取為扱悪鬼也五色乃系よ
て一多むじとび花也異朝よとつて事也 荆楚
歳時記風俗通一名長命縷一名續命縷一名辟
兵縷なるは此事也延命ハ祝也其外さぬ
く小いつらば薬玉を玉ぬきあやめとよめる哥をゆり
那公あやさ月の玉うけとよめるも是をいひ
きくらくとら乃玉とよめり其證 康和二年 五

月五日仲實朝臣家哥合一堀川院中宮

上総

あつこよきくもりてかきふあひさきりぬきとあき

雲圖抄の薬徒とくきり

騎射

五日大將射手此奏さるる左右近衛馬に乗て

ゆき成りて是をむしりゆきもりて推古天皇此御

宇よとちりする今かくしてつく代も成ゆん公事根

源是ハ古今をたえざるもあはれなるといふるくらの

ひもり此のりらよあはれ五月豊樂院として昔ハのり

弓と御覧てりなり年中折幸哥合注下略

薬日

六帖一費之平之惠慶法師家集夏哥よ

くまのれ被ひじよふあやめ太力化江よいさハなると

五月五日ハ薬日といひく一切此薬をハ此日取世諺同答

競駢

五月五日よ百草摘事也 三智抄 競狩ミも才
或ハ五月五日よすし狩也 萬葉集第十六よ

薬獵ともいり同義也 同第十七よ

杜よまふよすしはきまきとてのまよひりする月いさた

端午 きふち手紙を食事する昔高辛氏此愚子よ

月又日よ舟よ乗て海をりり一時暴風俄よ吹て

浪よ志つとをり水神と成て常よ人とたやると

あはれ人五色ハ系張としてちりてとして海中よか

をへしハ五色此蛟龍となるるといふりして海神

人とたやまさんささい舟も災難よあはれとつて

ゆりまのハ屈原の泪羅よ志つと魚腹よ死勢一

と祭一此此供物もアノヤ 公事根源 歳時

雑記をくよ端午

粽子名品甚多

左右近馬場騎射

五月三日ハ左近ハ荒手結也四日ハ右近ハ荒手結也五日ハ左近ハ

真手結也六日ハ右近ハ真手結也 袖中抄昔ハ

まゝハ左右近ハ馬場ハ騎射ハ事ハ侍ハ

射手ハ侍ハ大將ハ侍ハ事ハ公事

根源 後頼朝臣法性寺入道殿ハ五月五日ハ

心法詠テキル

カウハ孫モ花ハ衣ハふウハヒキマヤモヒハウハ

真手結乃日ヒウハ日ハハハ也惟清抄云是

ヒウハ日ヒウハ真手結乃日舎人モ裾ヒ

引折テ着スル故ハ引折日ハ云也荒手結

ヒウハ真手結ヒウハヒウハ也賀茂ハ足込率

度一テ競馬ハ色掌ヒ用ヒヒウハ事ハ和

歌ハ一難義ヒ秘スルヤウハヒウハヒウハヒウハ

アハハ毎年五月ハ荒手結真手結ヒ左右

ハ近衛ハ二度馬ハウリテ弓射ハ事也實澄云裾

ハ推色乃狩衣乃ヒウハヒウハヒウハヒウハ

ヒウハヒウハヒウハヒウハヒウハヒウハ

日裾モ布也ヒウハヒウハヒウハヒウハ

乃者衣ヒウハヒウハヒウハヒウハヒウハ

抄云是ハ左右近乃馬場ハ近衛ハ舎人ヒ

馬ハウリテ弓射ハ事ハ豊樂院ハ騎射ハ

異也肖聞云一条大宮ハ東ハ左近西ハ右近也

僻案抄ノヒウハヒウハヒウハヒウハ

卷河海云左近馬場ハ一条西洞院右近馬場ハ

一条大宮也云花鳥餘情云左右近馬場ハ

ヒ殿屋ハ騎射ノ時ハ中少將着座スルナリ猶

袖中抄委新撰六帖衣笠内大臣

揚州乃長吏船よりりて揚子江に浮て五月五日日午にあつる時揚州に銅と百鍊

鏡と云也事文類聚鏡門詳也玉葉集云後堀川院御時五月五日の事と云のちのこり

伊予國として樂府哥百練鏡能回法師

仁安二年八月經成て家哥合月祝部成伸

此哥判者清輔朝臣云右百練鏡乃心や彼の

江に在る舟中にてしりし藻塩草

此哥も百練鑑乃心也藻塩草

標葉佩之遊惡清少納言枕双紙も標

事あり俗はさんらん此事といふりれ

賀茂競馬競れまをさきふこじの朔日は馬の足と

着し左右よはかひく駒をさする事あり勝負乃

殿りて五月六日此競馬騎射乃事ありて五位

以上走馬シヨリウマとせしむるより延喜式ニよりさしり花鳥餘情ニ云五月五日ニ節ニ天皇あやめりつづくとけりて武徳殿ニ行幸ニ以て内弁外弁等ニてらるゝの宮内者ニ首蒲ニと献寸内侍女ニ後人續命ニ續と群臣ニより三献ニをりて六府驛射ニの事あり五日ハ五位以上ニ此人ニももる馬ニも衆六日ハ寮乃清馬ニも衆一競馬ニも事あり云今賀茂ニも朔日ありと云五日ハ競馬ニもいりて此騎射競馬ニの儀式ありと云下學集ニも擬ニと邦競渡ニと云悦目抄ニもらちの内まゝと云釣ニめらまけの事もあはしらの折もきとひる此はと我とあてりて世もをわたりて木ニ添仲正哥也同集ニ祭主輔親ニの事ありと云

五月雨 梅雨

五月雨ニと云梅ニのきと熟ニして落ニる時ニ也ニ本草網目ニ梅雨ニ或ニ作ニ黴雨ニ猶委文集ニ十六ニ衣濕ニ黄梅雨ニ裡行ニと云初學記ニ云梅熟雨ニ江東ニ呼ニ曰ニ黄梅雨ニといりニ云言抄ニ云梅雨ニ近來ニこの詞ニ也ニむニいニはニありニ夢庵ニのニゆニなニはニらニいニはニ石好ニとあまニはニ安和ニ飲但發句ニはニとニ云ニ又ニをニ代ニもニてニりニ山ニ集ニのニ百韻ニなニたニ宗ニ養ニ良ニのニよニとニり

花落粟

紫野今宮祭

九日 今十日也公事根源ニ云是ハ疫ニ衝ニの神也正曆五年長保二年天下と詠ニて奉ニりニと云ニやニのニ哥ニ後拾遺ニもニゆニと

その水鏡 藤原長能

白妙れとよみくくはらりしとていひて神の宗のりびり
今よりハあつらふん海もたまたま都の岸のりきり
此年一或人云よの中さつりつりつりハ船恩のりかよ今
宮にふ神を祝ておしやきも神馬もりけとま云つるを記す
蟬始鳴 月今よハ夏至節ニありと天慶二年二月貫
之家哥合初夏れ哥よとよめり
つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

水草ノ花 夏也

萍花 夏也

花薦 能月が哥枕云ろととハこり成
ふこもれ花と花ふとこつり

薦川 夏也只真薦こつり
ハ雜こつり 流布

藻花 塩海ハ藻よハあつり河上ハ
いつりつり花こつり 雲御抄

花又藻

和布川 夏也若和布ハ春也和布ハ雜也 新式
かやりの事其月くり部より引をてし

水葱花 古余伎我花

百合 新撰六帖ハ野ハゆり花とつり 万葉
こゆり花源氏辨ハこゆりえをともつり

紫陽草 此比良花ハも螢たつり合たり拾遺愚草上
あつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

未摘花

花ハ未トラスケハヤツテスルハ未摘
花トヨリ頭註蜜勘新撰六帖ノ紅の未トスルハ未摘

忘草花

花ナクハ雜也流布住吉代景物也八雲御抄
ワケル草普通ハ軒ヨアリ住吉乃岸ヨ生

色クハ草也云毛詩伯兮篇認草乃注ト通釈
曰認草今人忘憂云又替康養生論云合歡

蠲念認草忘憂ト注ト萱草也云云又河
海抄ニ云毛詩ニ北堂栽萱草能忘憂ト云云

萱草ト忘草ト云也住吉代岸乃忘草ト萱草
也今ノ神供トビ草トシテ供ズト云花鳥

餘情ト忘草ハ忍草乃一名也又萱草ト忘憂
草ト云トシテ忘草ト云トハ相遠ク

夫ナリ猶奥儀抄袖中抄ナリ
ト云トハト云ト普通トハ萱草ト云

ト云トハト云ト普通トハ萱草ト云

早苗

ハト云ト

田歌

田植

植物ト
越ト嫌

田草取

引トモ藻蓋草トハ六月ト云

トモ又月ト云ト合ト云ト

若苗

若早苗

初苗

カヤレ事ハト云ト不及注ト云ト
ト云トハト云ト初若引ト云ト

此トモ其月ト云トハト云トト云トト云ト

松虫七月ノ部ト云トト云トト云トト云ト

ト云トト云トト云トト云トト云トト云ト

ト云トト云トト云トト云トト云トト云ト

ト云トト云トト云トト云トト云トト云ト

ト云トト云トト云トト云トト云トト云ト

ト云トト云トト云トト云トト云トト云ト

ト云トト云トト云トト云トト云トト云ト

ト云トト云トト云トト云トト云トト云ト

ト云トト云トト云トト云トト云トト云ト

ト云トト云トト云トト云トト云トト云ト

三月... 初月... 但先例は... 其中は初と... 部立... 只花ハ三月... 相遠... 只時節く... くれひ... 童蒙... 人...

初氏

内膳司供早氏ハ世月の四日
山城國御園二所供也拾芥抄あり

若竹

竹若葉竹若緑
今年生竹

橘

ハみ月と本こと一ニ云
櫻とじすいとも夏也

常世花

後鳥羽院乃

御哥よ一分つること... 橘

あらず是ハ春花也... 橘

柗花

毎言抄 柗こそくろハ雜也

荆棘花

木也花... 流布

棟

音ハ練歳時記云凡一年中花信風二十四番始
于梅花終于棟花曰日本俗作櫻或名曰雲

見草也

梅と凡... 宗祇

一ノ雲

青梅

不好詞
也云云

臘梅

金葉集

極致集五

梅... 梅...

水雞 声れ扣戸ノ如し似
くも也 八雲

水鳥巢 大形
夏也

鴨子 鴨の子を鴨と云ふれ子も鴨なり共いりことゑと
ハ五音相通也花鳥餘情あり此注あり

鳥替毛 諸鳥乃毛と
かつるこも夏也

羽脱鳥 夏も片羽脱れぬを云ふりしもあはれ哉力
新撰六帖為家哥也雜といふ一説あり尋其

義非也夏也同集ノ水鳥此哥知家

鶉河 宇治鶉坂河等也 八雲御抄 河と云くよつと

以不ハヨク久又鶉と云ふハ闇れ夜の
とさ也されハ月といふとよなり 藻塩草 夜川 鶉飼 也但

鶉舟 舟れ詞くくハキ也鶉め心
なつてハ只ハつと云なり 流布 鶉飼 鶉舟

鶉繩 流布ハキハナ
くもなり

鮎 夏也若鮎ハ春也
さし鮎ハ秋也新式 魚梁打 夏也 流布 紹巴千句
乃自注ハ春也

とあきとも不用之
網代つまハかり也 魚梁 夏也
梁刺

螢 八月月の未だくもり社七月中とてハ幾燿燿ッてと
夏也秋といふ説ありハ理くく尋め 流布

蚊 蚊をくも同前連哥ハ張くくて季
よりりりハ雪あきまでななり 新式抄

蠶 カキ 俗鳥

蚕字

鹿子 新式抄物ハ鹿の子ハ戸をこてけ秋も

獸狩 かのこも 認狩 カキ 獸代事也夏也 新式 同上 新式抄ニ云鹿子ナク取事ハ夜分也

照射 夏ハ赤くふいさハ鹿其火ハ目と見えあハハ 射

火串 夏ハ赤くふいさハ鹿其火ハ目と見えあハハ 射

火串刺 夏也 流布

標衣

温故目錄卷第六

水無月

林鐘 鐘或作鐘六月律多り毎言抄ハ嫌詞

氷室 一日 主水司四月一日より九月盡まで是を真

水司 式日凡供御水者起四月朔日盡九月晦日

其四九月日別一駄準石上五八月二駄四駄六

又木ニ爲相哥よ

題ハ四月一日奏氷水と云り公事根源云昔仁徳天皇
の御宇六十二年五月額田大中彦皇子鬪鶏
野と云取狩一山出於て山より野中をた
まに給一ハ菴を依りたる様ある所三人を以りて
見せ給小窟也と云其時かの山にありは人
たしてとてせ給ふは氷室なりと云皇子の
その氷を以て採りておさめたるもの答て云土
派一丈あり堀てくまはるのふ小窟て茅蓋
なり厚敷敷てくまををさめたる小氷てい
やう大澤はともけいど是を取て熱月よりわ
こたし其時皇子は氷と仁徳此聖乃御門奉
給ききハかの山あり穀感と一由てまて文
よとのせし是氷とせ給始其後季冬とよ是

おさめて固く取らば氷室と置き給也

堀川百首の氷室此哥云仲實

此を此歌小大のちりおさめたる氷室を今もたせし
氷室乃在取ハ清輔初学抄をふんたり夫木中勢親王
いめハ此氷を以てくまををさめたる氷室は清膳
と云

熱月を以て清膳と云氷
と用は清膳の歌はと云

堀河百首氷室并後頼

皇れこと此を以て清膳と云ハ氷室は清膳の
すまは清膳の氷は清膳と云るを以て清膳と云
夫木少お内侍哥也同集為總并云

と云るきの氷は清膳と云るを以て清膳と云る
氷水 清膳常夏此巻に氷水ゆす事ゆり細流云
ひや 流る也枕双流と云いどくあつと書中

いあるわさ成てんと扇れ風もゆるし氷水よおとひこ
——てわくさり
杜子表納涼詩。

公子調氷水
佳人雪藕絲

醴酒 朔日 一夜さけはきふけさハおもとを供するも
一長さけらる竹葉の酒なれと一夜さけとヤシマ
こさけも式の文よゆり昔ハ口中よ未を嚼て宿と
さ酒よ作きささやこの酒ハ造酒司きふらり七月廿
日申して日毎もささるわら應神 天皇の御時より
さ酒よ作きささやこの酒ハ造酒司きふらり七月廿
くはるおがさ酒ははくさ事もけ時は百済の
人わらりてけささけはくさり是よりさささ酒と
ふ物おささ人ゆきと神代は素盞鳥尊稻田姫
乃さ酒ハ大蛇とささささ一ハ一ハの酒と化
る事日本紀に見くさささ酒とさ事神

代よりささる公事根源 但御物忌不供
芬抄 年中行事哥合よ

解次祭 十一日 是ハ先神今食以前上と神祇官此
北門より東の掖よ着て供神物具否とさ
ぬ次ハ廳よはきて事を新ぬ神祇官掌詞
ハ祝師祝乃座よけく本宮人と木綿とけけ
るり上壇下此薦座よとけく清巫幣物と
此儀ありさハ六月十二月ハ二度諸社へ御幣

公事根源 年中行事哥合よ
夏此を奉れさり月よのからゆり此の幣帛

祇園會 七月十四日兩日 此祭ハ禁中ハことさ
事ハ馬長なとりはけいさる

神覽ハナリ祇園社ハ貞觀十一年ハ託宣ノこと
 ありて山城國ハハナリヤ素盞烏尊
 此重部ニシテ牛頭天皇共武塔天神ノもハ也
 昔武塔天神南海ノ如キとよシハハカサ守四ノ
 日暮テ路レヤラ宿をわり給ふハカノホ小蘓
 民將來巨且將來と云二人レノあり兄弟ノ一ク
 けり兄弟ハナリ才ハトタリ々々天神ヤシ
 才ノおもよかり給ふヤウナリ皆子兄レ蘓民
 ノナリたふハ則クヤシ栗ガヲと座ラテ栗ハ飯
 とヒラ其後八年と云武塔天神ハナリノ御
 子と引ケテハ兄ノ蘓民ノ家ニケリ給テ一夜ハ
 宿をケテ事と慌ヒセ給テ恩を報ギンとテ蘓民ノ
 弟極とケク一とのハナリ夜ナリ疫癘天下ノ
 として人民死ス事終と云ハナリ時々蘓民ニ

所リケリ後ハ武塔天神我ハ速須佐惟神ヲム
 のたまふ今ヨリ後疫病天下ノおこリん時ハ蘓民
 將來此子孫也といハク茅輪とケル此災難とシ
 キリんこのこハハハヤ又祇園ノ縁起ハのせて
 いたテ天竺ヨリ北ノ國あり九相となリ其國ハ
 中ニ園あり吉祥といハ其園ノ中ニ城アリ城
 ノ王あり牛頭天皇ニタリ又武塔天神ノもハ
 娑竭羅龍王ノ女と后ニテハ王子とシケリ
 八万四千六百五十四神ノ眷属ありといフ御
 靈會レ時四條京極ニテ栗此御飯となリ
 蘓民將來此由緒と云ハズ公事根源
 カルサヤマシラレ瓦ノ多ク目ノカヒナノと云フコ
 史本ニ祇園民部
 一為家此等ナリ

茂園臨時祭

十五日 御禊ふとの儀大なる平野

天治元年六月よりゆる又き小走馬勅樂

天延三年北東遊の奇よい

八坂此里といわれ祇園也山城國愛宕郡八坂郷

暑日 石踏茂暑川原

夏行歩 也 藻塩

夕立

夕立暮此字二句嫌新式立の字と小二
夕嫌也夕よ五句嫌 無言抄 夕時分小二句
新式抄 武抄云白雨と書奉ハ山谷グ詩よありて
正字もれも夕此字立の字よ二句可嫌義たう新式
よ其沙汰るきれハ立此字よも五句可去也云不用

立此字ハ二句よ嫌

ハ今さあさあても詮たり

夕云

てし

夕立此事ゆり又夕立不可有降物ハ打越可嫌

秋夕の字立此字共よ式よ可嫌之暮此字イ

夕時分よも五句可嫌夕云たり清也夕云風

これあさし 無言抄 朝時分よ二句嫌新式抄物よ

も夕云云云云打越嫌こあれハ依句神夏

よかろくさろかろくに去嫌の事すもあるもハ夕云

夕立 小じとひくおひい夏の奇よあり

ても夏ありこ無言抄よあり一説ハ秋也案す小夕

立七月初ころの事として中法中ととも新式抄見し
る尾花なるとふらと合ころ哥も竹り万葉第十
夕立ぬらふことと表はる尾花と此は或六未
又堀河次郎百首は夕立と秋の題よりなり
蝸ハ二十一代集は夏代哥此部よりありとよふなり
丈夫なるとも蝸と夏の題よりあり仍し此事を以
きと定むる事とて其義哥乃部立ハ撰者の
種く習ひある事とてり連哥ハ是を用ひる事と
り又用ひる事もある也但二十一代は夕立
の年秋よりと稱ハ無言抄の説を其より可用之
次云新古今夏部よ
夕立は夕や庵の集れは夕立よりとてり
夕立は夕や庵の集れは夕立よりとてり

節折 此日 節折此命婦竹とりて参り節折
あてら口て涉りてとけしとてり果て宮よりとてり
度あり二度とてり祿と竹ぬ節折とてり

公事根源 儀式ハ事おり此ハ略記之雲圖
抄ハ圖あると年中行事哥合注云是神代ハ
りまらあり神賑乃公とてり十五百番哥合土御門
三日月代をよき竹のりとてり此神代ハ
十一月三度あり年中行事哥合冬此年
表若く竹此葉向ハありとてり此神代ハ
御 御 枝 名 越 枝 六 月 枝 不 たり
萬葉ハ和籙枝ともナリ下学集云六月
也夏秋交代之時候也而夏火秋金火与金相剋

故越夏之名攘相剋之災故云名越之菰也八雲
御抄云邪神とつひるこじの菰ゆよなるこじの
河辺より一とて麻此紫をとりてするをら夕又
夜する事也後撰よ

かもし河原なるをこすしては月とゆきてえんや
題ハみさ月とくしよ河原よまらいつく月乃あはれ
とてといつらあつると六月菰晦日也也こすして
月如何らぬ一云定家卿此注云これ月乃あはれ
月之由人疑之古人六月之比必出川原臨菰又納
涼及絲竹之遊及詩歌之興區例也不限晦日
稱皆月菰長元比或人記御倉小舎人來可參皆
月菰之由催之件菰六月十三日也藻塩草云云
らハ月もゆあはれ
明題
これ月の月えんとてやまらふしりハを定めり

菰菰ハ晦日也公事根源云大りこすハ百官しくく
朱雀門よあつまりて菰とゆふ六月十二月こす
る天武天皇此御時よりはりまる解除ハ觸穢を
この時より神事とゆ時ハ臨時よと常よもあはれ
ともこの大菰ハ百官一同よあつまりて菰とすこす
もハ家ハ輪とこゆ事と

菰菰のなるはりこすハちとせれいのらのあつり
ハ哥とてかふとてやけり然るは法性寺用白記ハ
思ふ事これにこしてあはれ紫とこすよきりてもの
ハ哥と詠すしとてこす云延喜式第八ハ六月晦
日大菰此祝詞とるすははる今ト部代家
中臣菰とゆハ大同ハ首末云葉小黒也六
月ハ国月あはれ菰いけとてなるきんやとふハ後乃
六月よこすハこす事東鑑よるこすハ麻の紫

とさうしてぬきしうしうするゆへ麻城もさうさう
こり年中の事并合よ

及引れあさの大ぬさうさうとくもこれほき法後漢
官川より流や二回此もさう草 宗柳

新輪 是牛頭天皇蘇民將來の教へり遺法
也疫病もさうん時蘇民將來の子孫也とい

て茅此輪とつけハげ災難とらさうんとのあつるゆ
今と枝よ茅此輪と越れ也

新千載入道前太政大臣哥也木木為家

伊波川をくちれりあさりもさうさうなり此めらり
年毎さうさうのこれさう川をれてさうさうありあつる

形代 人形也枝するふ人形とけりて身此災難と
さうさう川よさうさう事あり是はゆふさう

伊波川より後茅此あさりさう人さうさう風さあひさ
拾遺愚草上定家乃事也源氏東屋よ

みく人のさうさうあさりさうさうさうさうさうさう
見さう川あつるあさりこれひささりさうさうさうさう

千五百番并合よ小作後并也木木よさうさう
あり大原千句よじりさうさうさうさう草此原こ云

此この末よかたわさうさう 紹巴句也

小蠅成神 さうさうあさりさうさうさうさうさうさう
因太曆云天照大神御孫皇孫命欲為

豊葦原中國主彼國よハ螢火此かやく神及蠅聲
邪鬼かりとつり假令夏の蚊のさうさう乱さ悪神

のさう也是とさうさうさうさう六月後ハす也云云
衆蚊成雷とさうさうさう也さうさうさうさうさう
権僧正云朝哥云

河社

奥儀抄云、や、これ事、さあ、よ、り、め、き、こ、こ、れ
い、事、也、是、ハ、夏、神、樂、此、事、也、神、樂、ハ、冬、事、
と、を、の、つ、つ、め、ら、ぬ、事、と、て、夏、を、と、す、る、時、ハ、三、月、
川、乃、乃、乃、乃、と、す、る、也、川、乃、乃、乃、乃、神、四、本、と、さ、さ、く、
と、柱、と、て、ま、の、竹、と、棚、よ、り、ぬ、と、さ、さ、く、神、供、と、い、は、る、
ふ、る、是、と、か、な、し、ら、ぬ、い、ふ、こ、と、て、庭、火、よ、
新、古、今、六、
つ、り、や、い、は、志、の、ふ、あ、り、と、く、あ、と、夜、い、か、せ、ら、ぬ、い、さ、ん、
こ、い、奇、と、い、ふ、い、は、作、法、夏、神、樂、此、譜、よ、り、
神、樂、此、家、よ、秘、す、る、事、也、是、多、忠、方、が、説、云、云、下、畧、
猶、神、中、抄、よ、さ、あ、く、此、事、あり、夏、
神、樂、非、夜、分、水、辺、なり、師、説、

雲峯

陶淵明、四時詩、云、春、水、雨、四、澤、夏、雲、舞、奇、峯、
秋、月、揚、明、輝、冬、嶺、秀、孤、松、と、古、文、前、集、よ、り、

と、り、六、月、照、日、此、時、分、よ、白、雲、此、空、よ、か、さ、を、り、て、高、い、
峯、れ、や、う、な、る、也、夫、木、第、廿、一、衣、笠、内、大、臣、哥、
水、争、月、よ、た、り、ぬ、と、い、へ、大、を、よ、わ、や、と、い、峯、れ、や、の、
い、奇、判、者、光、俊、朝、臣、云、夏、雲、多、奇、峯、と、い、詩、ハ、お、
と、い、ふ、事、と、い、ふ、や、略、記、之、

薰風

六月、よ、く、涼、風、也、薰、風、自、南、來、と、古、文、前、集、か、
と、い、つ、り、孔、子、家、語、曰、昔、者、舜、彈、五、絃、之、琴、操、
南、風、之、詩、註、云、南、風、之、薰、今、
可、以、解、吾、民、之、愠、今、云、云、

涼

涼、と、云、詞、清、き、事、よ、い、ひ、を、り、て、ハ、夏、よ、あ、り、す、と、い、り、
い、詞、取、詮、を、り、只、納、涼、よ、を、り、て、ま、ら、ぬ、可、利、
月、一、露、一、網、代、一、鴛、鴨、
か、さ、り、の、冬、の、こ、
乃、小、と、涼、き、と、
云、詞、を、と、い、い、と、い、ハ、夏、を、り、自、余、准、之、

泉 泉殿も夏也 流布

清水掬 清水掬も夏也 流布

沈良之井 堀河院百首 俊頼 泉哥

定家 水色納涼と云題よりあり

又紀伊國曝井と云名所あり

雜也哥ハ萬葉第ナ又丈夫ハ

扇 玉篇 作扇 喻月 季

簾 織篋為席 暑月鋪之 順倭名 床上卷收 青竹簾 朗詠をとりて

汗 五言抄ハ夏此部ハ出ワル 或説ハ常ノ人此を云

連哥ハさやハ差別ノぬシ只納涼

采奴秋 待秋

秋隣 秋近 秋遠 秋を記シ

夏景 夏也

耀 白く久しき事ハ常夏ニナリ 顯註 容劫 萬葉

冬ハ未ヨリナリ 八雲御抄 但冬ニヨリ後撰集第 十四云 源ヨリ

してきて竹をれと

冬をれとまの地が小くはぬ色はじりこまらふりかつとま

春ハ足とくと又拾遺愚草上冬に哥云定家

花さゆりたれあのを枯一花さけるをゆとなてーこ

石竹 萬葉に石竹の二字はやま

夕顔 植物也新式花となてし夏

夕顔 ー宿 かりタケのとしひる宿をり 瓢花

丈夫茅 卅六 俊頼

ひささ花さけるきーまにまをさううまはれはげらうくちるか

凡

麻

櫻

花は梅より似る之顯昭云さううあささけ麻乃
くねとちられた中よりすうーいすうーの色われ

あされ河とこれと櫻麻こハ云綺語抄云さううあささけハ

ゆささの中より梅ささーいさううあささけ云之奥儀抄同之

以上袖中抄 不載異説取要記云

奥儀

玉卷草

葛れらうれたものやうまはれたすうささハハハハ
抄六月也 藻塩草 或説四月にたり

射子

一名ハ烏扇 本草 西行家集
ふりさふハさう事なれや庭の面ようすあまはあそとさ

藍刈

あわとくららハ
夏也花ハ秋也

藍干

衣蓋内大臣哥云

くらゆららる饒磨れ里よわとあわれつらひのちよあへれ
ふりまはれれとゆささふららあわとけけ河あさうられこまあささ
なうさうら同集よ信實哥かり

蓮

ー系

海松

流布 土佐日記 貫之
是ハ兄ノ也六帖ノ下ノと松をノ新ハハ
此哥ハ細流云海邊ノ松ナク
變代枕詞也あやめハ菖蒲ヨ
ハハおほくハある并ノうと
ハハおほくハある并ノうと

菱花

此哥ナク千載集ノ夏ノ部ノ入ノ又
夏也一ツ是モ尋流其義ト
澤泻 八夏哥寂事
蛙鳴ク田中ハ井トハ日
こころも夏也一ツ是も尋流其義と乃之丈木才

澤泻

蛙鳴ク田中ハ井トハ日

名家

是ハ風雅集ノ春秋部ノ
題ノこころ也すくハヤシ
て其季ノ定むるハハハハ
四季准之ハハハハハハハ

蟬

時雨ノ似
流布声
蟬詞也

火取虫

世俗ノ玉虫ハ火取虫
題註密劫 拾玉集 第一

顯註密劫

腐草為螢

月今ハ六月也 但和哥ノハ六月
六月ハ六月也 但和哥ノハ六月

あつくりとつらと二首より小堀河百首の哥くらねむりひそ
ひそりかあきと去りよ 哀草はけわぬ管とありとせし心敬
いけよゆきをけ管死らんと云ふよ
いそじよふたふと朽てふもあー宗祇 引むとみり一人か
よゆきは其みらとては朽て管死らんと云ふよ

練雲雀

河内カワチから引ヒキれ糸の移りひそりよりヒキ管死ありせし引
ゆりひそりとい毛をわつと移るを引ヒキ乃糸ヒキ、
こてハ経緒フシ也定家三百首此注よるなり

鶺鴒ニガリ鷹カガ

六月ムツキ代キちちゆらぬ雲雀ヒキ野ノすすふも餌メあつ
ひそりよあをせすて只すありとてヒキ鳥トリ小暑コショウ代キちとせ
あつりて其後はふし暑よ鷹カガ代キちありこなり同

夫ハ外縁集ハ春ハ特ニハ鳥ノ音ノハはまの
はなとて鳥ノ音ノハはまの

